

#02 親族内承継



株式会社フジワラケミカルエンジニアリング



Company Profile

- 〔所在地〕 岡山県倉敷市福江7-1
- 〔従業員数〕 48人(2024年1月)
- 〔設立年月〕 1989年9月
- 〔業種〕 工業用プラスチック加工、機械加工、溶接組立、曲げ加工
- 〔発信者〕 代表取締役社長 杉本 剛久

事業承継前の課題や解決すべき問題点

後継候補社員の退職で承継が課題に

当社は、義父・藤本孝志が、知り合いの社長からの「プラスチック加工の会社が少なくて困っている」との声を受け、目の前の人を助けてあげたいとの思いで1987年に立ち上げました。当時は、浄化槽が官民で普及し始めた頃で排水処理に関するタンクや管の仕事が中心だったそうです。「ITバブル」で1995年頃から半導体製造工程で不可欠なシリコンウェハー上のごみや金属、有機物を取り除く洗浄機の需要が増加し、年間売上高は3億円まで伸びましたが、仕事の9割が海外輸出向け製品だったことからリーマン・ショックの影響をもち、売上高が1億円強にまで減る危機を迎えました。何とか耐えしのいでいるうちに、iPhoneの普及やスーパーコンピューターなど半導体需要が再度高まり、再成長を遂げました。現在は、プラスチックの機械加工、溶接、熱曲げなどの加工技術を駆使して、半導体洗浄装置の躯体製作のほか、ポリ塩化ビニル(PVC)被覆加工や液晶製造装置の付帯装置製作などを行っています。



義父は65歳を迎えた頃、いつまでも会社を運営し続けられるものではなく、社員やお客様に迷惑をかけないように事業承継を考え始めたそうです。その時に後継者として任せたい社員がいたようですが、その方が退職してしまい、候補者がいなくなりました。M&Aによる同業への売却も考えたそうですがうまくいかず、事業をどう承継するかが大きな課題となりました。

結婚式当日に告げられ承継を決意

私は、大学の農学部を卒業後に、食品製造会社に入社し、セントラルキッチンでの品質管理に携っていました。2009年に妻と知り合い、2014年に結婚しました。結婚式当日に突然「将来的には社長をやってもらいたいと思っている。どうなんだ?」と告げられ、「分かりました。やります」と即答したことを覚えています。それ以前にも、義母から少し打診を受けていて、会社の決算書などを調べるなどし、高い技術力で切削加工から組立までを一貫製作できる面白い会社だという印象を持っていたのと、前職でも異物混入対策

経緯やきっかけ

などでプラスチック関連の知識を得ていたことから親近感があったこと、なにより、やりたい思いを叶えるには一番上に立たなければいけないという経営者へのあこがれがありました。結婚から2年間、前職の九州工場新設に携わるなど経験を積み、2016年に36歳でフジワラケミカルエンジニアリングに入社しました。



実際の取組内容 その過程 相談先等

新工場活かし半導体メーカーと直取引開始

入社したものの仕事を覚えるのに精一杯で、現場に入って業務を一つずつ把握しました。同年代の従業員が多く、すぐに受け入れてもらったのはありがたかったです。翌年に現本社地への工場移転が控えていたタイミングで、将来に向けて工場内のレイアウトを任せられました。右も左も分からず、朝現場に行ったら「こんなレイアウトはどう?」とヒアリングし、建設会社との打ち合わせをする日々だったことを思い出します。そんな中、岡山県産業振興財団から後継者育成塾の話をいただき、すぐに申し込みました。後継者の勉強をする機会がなかったので有意義な1年間を過ごすことができました。



入社時、与えられた目標は年間売上高10億円でした。1社からの受注がピーク時で7割を占めており、新工場で大型洗浄装置も受け入れ可能になることを武器に大手半導体メーカーとの取引開始に向けて営業し、直接取引がスタートしました。複数社に取引先を広げ、目標を達成することができました。2018年に代表取締役に就任。義父は、きっぱり代表権を委譲し、会長に就任しましたが、あまり口は出さず、求められるのは月の売り上げや利益の報告程度でした。

就任後は、当社の強みである溶接などの手仕事の速さと技術力の高さをさらに活かせるよう、職人社員の増員と、マニュアル化による育成に力を注ぎました。方針が合わず退職してしまったベテラン社員もいますが、生産性改善による働き方改革に取り組み、入社当月120~140時間あった残業を、多くて40時間にまで減らすことに成功しました。

今後の課題・展望

培った技術活かし新分野に挑戦

世界各国が先端半導体を自前で作ろうと投資しており、国内でも公的資金の投入も含めて投資が活発になっています。この流れにどう追随するかが課題です。プラスチック加工の経験者はまずいないので、今まで以上に教育体制を整え、高品質な生産体制構築を進めていきます。ただ、半導体需要もずっと続くものではなく、2030年までのビジネスモデルでは……と感じており、培った技術を活かして新しい分野に挑戦していく計画です。その一つとして試しているのが、大学で学んだ農学の知識も活かせる水耕栽培キットの開発です。より価値の高い商品になるようアガベやコーデックスなどの塊根植物の育成方法を勉強中で、将来的には装置タンクなどを生産していければと思っています。



娘婿の事業承継は、難しい部分もありますが、不安に感じる部分もある中で全てを任せてくれ、好きなようにさせてくれているのがありがたく、スムーズに事業承継できたのではと感じています。2代目として事業を拡大し、地域に貢献できる企業にしたいですね。